

令和3年度第2回鳥取県教育審議会学校等教育分科会（要旨）

- 1 日時 令和3年6月7日（月）午前10時から午前11時30分まで
- 2 会場 鳥取県立図書館2階大研修室
- 3 出席者 小椋分科会長、尾崎委員、二階堂委員、高尾委員、中村委員、藤田委員、金川委員、松本委員、三木委員、山根委員、西川委員、田中オブザーバー、金山オブザーバー（教育委員会）中田教育次長
（高等学校課）酒井課長、福本室長、尾崎課長補佐、新田指導主事、石原指導主事

4 要旨

（1）生徒一人一人の能力を伸ばす学び・環境について

- 子どもがどういった高等学校教育を受け、将来人生が幸せになるのかということが、全ての前提である。副産物として鳥取が良くなるとか、地域が良くなるとか、地域との連携ができるということがある。
- 文部科学省の示す教育施策は能力的に期待される生徒を前提したものであるが、公立学校として守るべきものは、恵まれない子どもたちと保護者たちである。優秀な生徒の育成に軸足を置くよりも、貧困で苦しむ子供や中山間地域の生徒たちへ目を行き渡らせることをしっかり考える必要がある。
- 全ての生徒が勉強をしたくて高校に通っているのではなく、部活に精を出したり、友達と遊ぶことに価値を感じている生徒もいる。
- 中学生で自己決定や自己選択できる子どもは限られているので、義務教育で学んだことをベースとして高校に進学してからやりたいことを見つけてほしいと願う保護者が多い。

（2）学校の規模等について

- 学校規模等のシミュレーションは、費用対効果も踏まえてなされるべき。
- 規模が小さいことが良くないという前提とならないよう、小さいことのメリットも示すことが必要である。4学級以上あれば高校の活力が維持できる（逆に小規模校では活力を維持できない）とすることには問題がある。
- シミュレーションの学級減で対応する案では、全県的に学校規模が小規模化するため、学校の活力が減退することに問題がある。
- 高校の統廃合は否めないのではないかという話は保護者の中でも出ている。
- 中山間地域の高校に県外から留学することはいいことである。鳥取と関わり、卒業してからも鳥取のことを思い、力になってもらえる関係人口を増やすことにつながると思う。

（3）高等学校の魅力化等について

- 中学生・保護者にとって、新しい施設設備は高校を選択する際に重要な視点であり、ソフト面の魅力化とともに検討していくべき。
- 県立高校は義務教育ではないのだから、私立高校のように法人化すれば、自ら生き残りをかけて頑張るようになる。
- 中山間地域で高校がなくなることは、地域にとって大きな損失である。町立にすれば魅力ある学校づくりが出来るのではないかと考える。

（4）特別な支援が必要な生徒への支援の在り方等について

- 高校には、自閉症学級、特別支援学級にいる生徒の受け皿が無い。発達障がいや特性等の支援を必要とする生徒が入学できる高校があると理想。
- 高校にも通級指導教室だけでなく、特別支援学級が今後必要になると考える。
- 特別な支援が必要な生徒については、卒業後を見据えた支援の視点が必要である。